

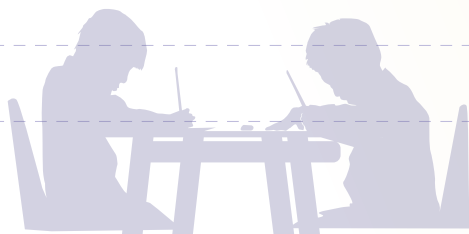


特集

「統一合判」 中学入試レポート vol. 2

進学実績や学習指導だけじゃない、 私立中高一貫校の 多様な活躍と成果

5年生の統一合判テストは今回で2回目。大勢の仲間が集まって力を競う、こうしたテストの雰囲気や形式に、はじめて触れる受験生も多いと思う。再来年2月の入試まで、まだ約1年と5か月あるが、夏休みを終えて受験勉強も本格的な実力養成段階に入りたいま、気を抜くことなく、来春の6年生としてのスタートに向けてはずみをつけよう。今回は、今後の学校選びのためのひとつの視点として、進学実績や学習指導だけではない「私立中高一貫校の多様な活躍と成果」をお伝えしたい。



首都圏模試センター

私立中高一貫校の大学進学実績の良さは、各私学のめざす「全人教育」の副産物

私立中高一貫校や中学受験の話題がマスコミで取り上げられるときには、なぜか「私立中高一貫校の大学合格（進学）実績の良さ」に焦点をあてたものが多い。

確かにそれは、多くの小学生の保護者や、世間の多くの人々に広く知られている事実で、公立学校と比べたときに、そのことが私学にとって、ひとつのアドバンテージとなっていることは間違いない。それゆえ、そうした切り口で私学が評価されることが多いのも、当然といえば当然だろう。

しかし、中学受験に長く関わり、多くの私学を取材してきた私たちが実感しているのは、私立中高一貫校の6年間一貫教育の成果は決してそれだけではないということだ。

私立中高一貫校の大学進学実績が良いのは、これまでに私たちが私学の中高一貫教育の特質を、①それぞれ独自の理念と教育方針を持つ私学の、②中高の一貫した教育環境で、③大学への進学をも見通すことのできる教員が、④有機的に再編されたカリキュラム等を工夫し、⑤6年間の継続性・連続性を活かす指導を、⑥入学してきた生徒と保護者の理解と賛同を得て、⑦生徒と教員、保護者の一体感と協力体制のもとで実現することのできる、⑧大学への受験・進学と学問のための基礎作りを両立させた、⑨バランスのとれた人間教育（全人教育）である、……と理解してきたことからすると当然の成果ともいえるだろう。

いずれにしても、私立中高一貫校の大学進学実績が、大半の公立高校と比べて格段に優れていることは、すでに広く知られている（そうした成果につながる中高6年間一貫教育のノウハウを私学に学び、公立学校を選ぶ生徒にも提供するために設置されたのが、現在までに全国に設置されてきた公立中高一貫校に他ならない）。

しかし、そうした私立中高一貫校の大学進学実

績の良さは、あくまで各私学がめざしてきた「人間教育（＝全人教育）」の副産物としての成果であり、決してそれを第一の目的とした教育が行われてきたわけではない。これから先、わが子の進路を考えていく保護者の皆さんには、まずその点を意識して、私立中高一貫校の教育の内容と、その成果を注視していただきたいと思う。

もちろん大学への進学状況（実績や進路指導スタイル）や6年間の学習指導が、保護者にとって大きな関心事であることは承知のうえで、それ以外の「幅広い私学の成果」に目を向けていただきたいのである。

そうすることによって、「進学実績や学習指導だけではない」私立中高一貫校の（生徒たちの）多様な活躍や成果が、大学進学実績以上の魅力をもって感じられるはずだ。

継続した中高6年間の時間的余裕が、私立中高一貫校の大きな魅力

もともと私立中高一貫校では、「高校受験がない」ことによる時間的余裕と中高の継続性を生かして、教科の学習だけではなく、「行事や課外活動、好きなことや部活動などに思い切り打ち込める」ことが、大きな魅力のひとつであるといわれてきた。

人生のうち最も多感で成長著しい、12歳から18歳の6年間。人間性の基礎は、この6年間で形づくられる部分がとても大きい。



私立中高一貫校では、好きなことや部活動などに思い切り打ち込むことができる。



この大切な時期に、高校受験で分断されることなく、一貫した考えのもとで個々の生徒を見守り育ててくれる私立中高一貫校では、生徒自身がじっくりと自分と向き合い、将来の進路を含めた自分自身の生き方を考えるための気持ちの余裕も生まれる。

そうした時期に、自らの意思で好きなことに打ち込めることで、生徒は自尊感情や目的意識、学校生活へのモチベーションを高めることができるし、同時にそうした活動を通して、他者への理解や協調・協働する力を身につけていくことができる。

一方、教科学習にあっても、大学受験に必要な教科（英・数・国・社・理）だけではなく、美術、音楽、技術、体育、家庭科などの教科を通じて、豊かな情操や感性を育てることができる。

私学のなかでも早くから人気の高い、麻布や開成、武蔵、慶應普通部などの伝統校や、女子学院、雙葉、フェリス女学院、東洋英和女学院、立教女学院など多くのミッションスクール、桜蔭などが、むしろ先の5教科の学習以上に、こうした側面（美術、音楽、技術、体育、家庭科など）で、充実した授業や課外活動、発表の場をもっていることに目を向けていただくとよいだろう。

教科学習の枠組みにとどまらず、平和教育、環境教育、異文化理解教育など、今後の社会でますます必要になってくる知識や理解を深める機会も、私立中高一貫校の多くが積極的に設けていることにも注目したい。



8月のインターハイでは27年ぶり2度目の全国優勝を果たした佼成学園女子ハンドボール部。

こうした様々な側面における幅広い教育や活動を総合的、有機的に結びつけることで、初めて私学の中高6年間一貫教育が形成されていると考えてよいだろう。

この夏に私立中高一貫校が見せてくれた、さまざまなスポーツの成果

そしてこの夏にも、多くの私立中高一貫校が、さまざまな活動の成果を見せてくれた。

夏は全国の中高生にとってスポーツの季節。今年は東京都を中心とした首都圏で8月に開催された「全国高等学校総合体育大会（インターハイ）＝南関東総体2014」では、例年と同じくそれ以上に、私立中高一貫校の選手たちが、華々しい成果を見せてくれた。

ハンドボールで全国優勝を成し遂げた佼成学園女子、テニスの団体戦で全国4位、少林寺拳法で全国4位に入賞した富士見丘（東京・渋谷区）など、今年の「SGH（スーパーグローバルハイスクール）」指定校やアソシエイト校として選定された私立の女子進学校が、スポーツの場でもこうした全国トップレベルの活躍をしていることは大いに注目される。女子バスケットボールで全国ベスト8まで進出した八雲学園の活躍なども特筆できる。

高校スポーツにおける私立中高一貫校の活躍は数多いので、この記事の巻末のコラムに一覧で紹介しておこう。ざっと見ていただくと「（進学校として知られる）こんな私学が、インターハイでも活躍しているのか！」と感じる方も多いのではないだろうか。

さらに高校スポーツの世界では、インターハイに限らず、東京都や各都道府県の予選大会で多くの私立中高一貫校は上位に食い込む奮戦を見せている。かつて高校野球（硬式）の東京都大会でベスト16まで進出したことがある開成高校をモデルにした小説「弱くても勝てます！」を原

作とした同名のドラマが放映されていたのは、つい最近のことだが、この夏にも芝高校などが都大会で上位に進出する活躍を見せている。

中学校のスポーツに目を移すと、先の「高校受験がない」利点を武器にして、高校スポーツ以上に、各種の全国中学校選手権大会（略称＝全中）や、その都道府県予選大会で、私立中高一貫校が活躍を見せている。

また今年度は、多摩大学目黒中が中学サッカーの春季東京都大会で優勝。東京都市大学附属中が準優勝。同じく夏季東京都大会では暁星中が優勝、駿台学園中が準優勝、国学院久我山中が第3位となり、多摩大学目黒中と暁星中は関東大会に出場した。同じく神奈川からは桐蔭学園中、千葉からは暁星国際中が関東大会に出場して上位進出。決勝まで勝ち上がった暁星国際中が（決勝が台風で中止になったため）両校優勝という活躍を見せてくれた。

このように、中学スポーツでも、首都圏の各地（全国の各地）で私立中高一貫校の活躍が目立つ。もちろん公立中学校でもがんばっているチームは多いが、高校受験のための準備に時間を取られることなく、中学3年の夏の大会まで、好きなスポーツに打ち込めることの意義は、生徒にとっても保護者にとっても非常に大きい。

このほかにも野球、テニス、ソフトテニス、ラグビー、バスケットボール、バレーボール、卓球、バドミントン、ダンス、柔道、剣道、空手、少林寺拳法、水泳、水球など、各種のスポーツでこの

夏、私立中高一貫校が多彩な活躍を見せている。関心のあるご家庭では、ぜひ各種目（競技）のWebサイトで調べてみるとよい。お子さんにとっても、受験準備の目標や励みになることだろう。

文化部も負けていない、 私立中高一貫校の多様な成果

私立中高一貫校の部活動での活躍は、運動部だけではなく文化部も負けていない。むしろ体格や運動能力で差をつけられることなく、ほとんどの私学で中学生と高校生と一緒に活動することの多い文化部のほうが、私立中高一貫校の全国的な活躍が目立つという見方もできる。

象徴的なのが、暁星高校の競技かるた部。毎年、近江神宮を中心会場として行われる「全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会」では、この夏にも団体戦で全国優勝。7年連続9回目の全国制覇という偉業を達成している。漫画・TVアニメ「ちはやふる」人気の影響もあって競技人口が急増しているという競技かるた。興味のある子どもたちも多いだろう。

同じくこの夏に行われた合唱の「第81回NHK全国学校音楽コンクール東京都コンクール本選」では、豊島岡女子学園が中・高ともに金賞を受賞。9月に行われる「関東甲信越ブロックコンクール」に東京都代表として進出を決めている。ほかにも大妻中野、清泉女学院、日本女子大学附属なども合唱では毎年、全国トップレベルの活躍を見せている。

豊島岡女子学園はほかにも、5月に行われた「第38回全国高等学校囲碁選手権大会」東京都大会の女子団体戦で第2位となって、7月の全国大会では全国優勝を果たしている。また藤村女子は3位、渋谷教育学園幕張は4位に入賞した。

囲碁の男子では、開成、筑波大学附属駒場などの強豪が今年も全国高校大会で上位入賞。渋谷教育学園幕張も初出場を果たしている。



最近では人気が増しているという「競技かるた」の緊張感とスピードは、まさに「知る格闘技」だ。



また、やはりこの7月に行われた「第19回 全国中学・高校ディベート選手権（ディベート甲子園）」には、中学の部の関東甲信越地区の代表校（5校）として、開成中、女子聖学院中、創価中が出場。高校の部の関東甲信越地区代表（6校）としては、すべて私立中高一貫校である開成、早稲田高等学院、女子聖学院、慶應義塾、渋谷教育学園幕張、創価が出場を決めている。

このほかにも、吹奏楽、管弦楽、マーチングバンド、美術、書道、漫画、生物、化学、物理、放送、ラジオ、鉄道研究、コンピュータなど、様々な文化部で、私立中高一貫校が全国レベルのハイレベルな活躍を見せている。

つまり、運動部・文化部に関わらず、誰もが自分の好きな部活や種目に打ち込むことができ、しかも高いレベルでの活躍や成果を出すことができるのも、私立中高一貫校の大きな特色ということなのだ。

そうした継続的な6年間の部活動を行うことのできる環境があり、しかも熱心な顧問の先生（専任教員なら転勤することがない）や指導者（OBのつながりや支援力も強い）が面倒を見てくれる。それが、長くても10年毎で転勤を余儀なくされる公立中学・公立高校と、私立中高一貫校の大きな違いでもあるのだ。

学校の枠を超えた大会や催しでも、私立中高一貫校の生徒が大活躍

ほかにも、スポーツの中体連、高体連、文化部における各種団体が主催する中高の大会や発表会だけではなく、学校の枠を超えた大会や発表会、コンクールなどで、私立中高一貫校が多彩な活躍を見せている。

やはりこの夏（7月）に行われた「第55回国際数学オリンピック(IMO)南アフリカ大会」には、日本代表として、開成高、筑波大学附属高（2名）、早稲田高、東海高〈愛知〉、洛星高〈京都〉の、

いずれも私立中高一貫校の6名の選手が出場。何と6名全員がメダルを獲得するという快挙を成し遂げている。

また、世界の高校生が国連会議を模して国際問題を討議する「模擬国連」をめざして、積極的な取り組みをしている私立中高一貫校が多いが、今年5月15～17日に、ニューヨークで開かれた「グローバル・クラスルーム国際模擬国連大会」では、渋谷教育学園幕張高の女子ペアが「国連人権理事会」部門でみごと最優秀賞を受賞した。日本の最優秀賞受賞は初めてだという。

小学生にも身近なものでいえば、この8月9日（土）～10日（日）の2日間、東京ビッグサイトで開催された「鉄道模型コンテスト2014」には、全国119校（昨年は111校）による鉄道模型、鉄道レイアウトが出展され、「モジュール部門」、「一畳レイアウト部門」「HOゲージ部門」の部門ごとに来場者や審査員による投票が行われ、2日目に各賞が発表された。全国から集まった参加者のなかには、女子高や鉄道研究部以外の地理歴史部や物理部の姿もあり、地域性だけでなく、表現方法までバラエティに富んでいたという

最も参加者が多い「モジュール部門」で文部科学大臣賞に輝いたのは、明治学院中学校・明治学院東村山高等学校（鉄道研究部）の作品。同部門の優秀賞は、共立女子高（地理歴史部）も受賞。来場者が選ぶベストワン賞には白梅学園清修中高一貫部（鉄道模型デザイン部）がそれぞれ選ばれた。

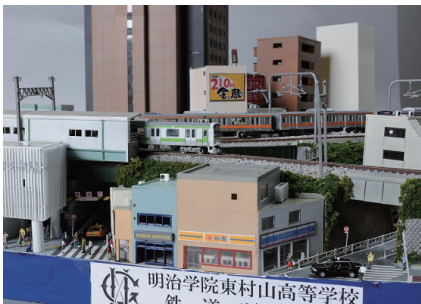
こうした活動は、このほかにも多岐にわたるが、私立中高一貫校の生徒は、中高生がチャレンジできるこうした機会を生かして、自分たちの活動や作品のレベルを高めようと努力を重ね、その過程で、さまざまな力を育てていくことができる。そして学校の枠を超え、さらには日本の枠を超えて、世界の舞台上で活躍を見せてくれる生徒も育ってくる。

そうした課外・学校外での活動が、「グローバル

8月9日（土）～10日（日）東京ビッグサイトで開催された 「鉄道模型コンテスト2014」は今年も盛況に！

今年の夏も、8月9日（土）～10日（日）の2日間、東京ビッグサイト〈東京国際展示場〉西3ホールにて、「鉄道模型コンテスト2014『第6回全国高等学校鉄道模型コンテスト』」が開催された。

同コンテストの公式Webサイトには「このコンテストは、鉄道模型の制作活動を行っている高校生に発表の場を与え、正しく評価することで、高校生モデラーが自信を持って活動が続けられ、コンテストへの参加で培った技術や経験を後輩たちに伝承していける、また学校どうしの交流も深まっていく。そのような活性化を目標とし、将来は高校球児が甲子園をめざすように、コンテストをめざすことが当たり前になるような大きな大会に育てていきます」という趣旨が記載されている。そして、今年も多くの高校生モデラーの熱気が一堂に集う場となった。



「モジュール部門」で文部科学大臣賞に輝いた明治学院東村山高、明治学院中の作品。

今回の参加校は、119校。最もエントリーの多かったのは「モジュール部門」。まさに「鉄道模型の甲子園」と呼ぶにふさわしい大規模なコンテストに発展した。鉄道模型や鉄道好きの小学生と保護者にとっては、とても興味深い作品展といえるだろう。

今年も出展作品は、各参加校の生徒たちが持つ力を集結させた力作揃い。「モジュール部門」では、“オタクの楽園”私立男子校だけでなく、私立女子校の作品も優秀賞やベストワン賞を受賞するなど、例年以上にバラエティに富んだ、高いレベルのコンテストとなっていた。興味のある小学生と保護者は、公式Webサイト (<http://www.moraco.jp/>) やフェイスブックページ (<https://www.facebook.com/tetsucon>) をご覧いただくと、きっと親子で楽しめることだろう。



「来場者が選ぶベストワン賞」に選ばれた白梅学園清修中高一貫校（鉄道模型デザイン部）の作品。

人材の育成」にもつながってくることが、私立中高一貫校の「プラスアルファ」の成果といえることができるはずだ。

6年間一貫した環境で得られる、 幅広く親密な人間関係

ここでもう一度、私立中高一貫校と公立中高との違いに目を向けてみると、そのひとつに私立中高一貫校だからこそ密度が濃く形成される「人間関係」がある。

私立中高一貫校の6年間では、近隣地域の生徒が集った公立学校とは違った貴重な出会いがあ

り、6年間一貫した教育環境ならではともいえる、親密な人間関係を築くことができる。この多感な成長期に、中高の6年間をともに過ごした友人や師弟との人間関係が、一生の財産になることはいうまでもない。

クラブ活動でも6年間一緒にがんばった仲間たちとの関係や、そこで共有できた経験は、人生で最も大切な思い出となり、卒業後も励みとなる。学校行事やクラブ活動、学校生活のサイクルのなかで、自分自身を中心にして、上下6年間にまたがる先輩・後輩との出会いや、一緒に活動ができることは、中高一貫校ならではのといえるだろう。

まだ入学して間もない中1の生徒にとって、各



8月17日（日）、サントリーホールで 「洗足学園創立90周年記念コンサート」が開催！

洗足学園はこの夏の8月17日（日）に、サントリーホールにて、学園の創立90周年を記念してのコンサートを開催した。

この世界的なホールを借り切って、午後の早い時間帯には小学校、夕刻からは中学高等学校の生徒とOG、保護者によって行われたこのコンサート。中学高等学校の部では、在校生と学園関係者をはじめ、多くの観客で席が埋められ、演奏ごとに大きな拍手が贈られた。

女子の進学校として、実績と評価を躍進させる一

方で、「音楽に満ち溢れた学園づくり」を標榜し、音楽教育・活動にも力を注いできた同学園の数々の取り組みがあり、この日演奏した吹奏学部、弦楽合奏部、合唱部といったクラブは、まさにその思いを体現したものだという。さらに6年前に結成された洗足学園中高フィルハーモニー管弦楽団は、水泳部、茶道部など既存のク



この素晴らしいホールで、日頃の練習の成果を披露した洗足学園中高の生徒たちは、大きな拍手で讃えられた。

クラブの枠を超えて、誰もが入部できる特別なクラブなのだから。

フィナーレでは、合唱部の生徒と、保護者、卒業生とその保護者、教職員による約400名で編成された大合唱団によるハレルヤ・コーラス、アーメン・コーラスの圧巻の歌声がホールに響き渡り、満場の喝采を浴びていた。

創立90周年という節目を祝うこの日、学園に関係する様々な人々が一堂に会して行われたコンサート。まさに洗足学園の「進学実績だけじゃない、私立中高一貫校の多様な活躍と成果」を肌で感じられる貴重な機会だった。

自の目標とする進路に向けて努力する高3生や、いろいろな行事やクラブで中心となって活躍する高校生の先輩の姿を間近で見られることが、良い意味での刺激や励みになる。

逆に、高学年の生徒にとっても、かつて自分たちの面倒を見てくれた先輩のように、低学年の生徒に良い影響を与えられるよう自身も努力し、後輩をリードする立場からアドバイスをしたりする経験が、自身の人間的な成長のきっかけにもなっていく。

そして何より、こうした友人や先輩・後輩は、誰もがその学校への入学を希望して努力し、入試を突破して入学してきた、共通の思いや意思を

持つ仲間＝同窓生に他ならない。そうした仲間たちは皆、中高6年間の学校生活を楽しみながらも、それぞれに目標を持って学業でも努力をしている。こうとする意味での共通性を持っている。

そして、それぞれの私学に対するこうした思いや期待は、生徒や先生だけではなく、わが子をそこに通わせる保護者にも共通のものとなる。つまりは、そうした私学に関係するすべての人々が、その私学のより良い伝統や校風を守り育てていこうとする「仲間」となり、ひとつの共同体となる。

この点は間違いなく、地域に根ざした役割を持つ公立中学校とは違った、私立中高一貫校ならではの、大きな特徴といえるだろう。

この夏、私立中高一貫校が見せてくれたインターハイでの活躍〈抜粋〉

- 体操〈男子団体総合〉埼玉栄（埼玉）4位
 - 体操〈女子団体総合〉明星（東京）7位
 - 新体操〈男子団体〉埼玉栄（埼玉）優勝
 - 新体操〈女子団体〉昭和学院（千葉）優勝
 - バレーボール〈男子〉駿台学園（東京）ベスト32
 - バレーボール〈女子〉共栄学園（東京）ベスト8
春日部共栄（埼玉）ベスト8
八王子実践（東京）ベスト32
 - 相撲〈団体〉埼玉栄（埼玉）ベスト16
 - 弓道〈男子団体〉城北（東京）7位
 - テニス〈男子団体〉東海大菅生（東京）準優勝
東京学園浦安（千葉）ベスト16
茗溪学園（茨城）ベスト32
慶應湘南藤沢（神奈川）ベスト32
早稲田実業（東京）出場
 - テニス〈女子団体〉富士見丘（東京）ベスト4
秀明八千代（千葉）ベスト16
早稲田実業（東京）ベスト32
 - なぎなた〈団体〉文化学園大杉並（東京）予選リーグKブロック3位
神大附（神奈川）予選リーグMブロック3位
 - 水球〈男子〉埼玉栄（埼玉）ベスト8
明大中野（東京）ベスト16
 - バスケットボール〈男子〉京北（東京）ベスト32
法政大第二（神奈川）ベスト32
八王子学園八王子（東京）出場
足立学園（東京）出場
アレセイア湘南（神奈川）出場
昌平（埼玉）出場
- 
- バスケットボール〈女子〉昭和学院（千葉）準優勝
八雲学園（東京）ベスト8
東京成徳大学（東京）ベスト8
明星学園（東京）ベスト8
 - ソフトテニス〈男子団体〉横浜創英（神奈川）出場
 - ソフトテニス〈女子団体〉相洋（神奈川）ベスト16
昭和学院（千葉）ベスト32
文化学園杉並（東京）ベスト32
星野学園（埼玉）ベスト32
 - バドミントン〈男子学校対抗〉埼玉栄（埼玉）ベスト4
西武台千葉（千葉）ベスト16
常総学院（茨城）ベスト32
 - バドミントン〈女子学校対抗〉埼玉栄（埼玉）ベスト16
西武台千葉（千葉）ベスト16
日本橋女学館（東京）ベスト32
 - 柔道〈男子団体〉国士館（東京）優勝
修徳（東京）準優勝
東海大浦安（千葉）ベスト8
東海大相模（神奈川）ベスト8
- 
- 柔道〈女子団体〉淑徳（東京）ベスト4
桐蔭学園（神奈川）ベスト16
 - 空手〈女子学校対抗〉帝京（東京）5位
 - アーチェリー〈男子団体〉日本工大駒場（東京）3位

- 少林寺拳法〈男子団体演武〉城北（東京）5位
 - 少林寺拳法〈男子組演武〉城北（東京）9位
早稲田実業（東京）10位
 - 少林寺拳法〈女子団体演武〉富士見丘（東京）4位
 - 少林寺拳法〈女子組演武〉早稲田実業（東京）8位
富士見丘（東京）9位
 - ハンドボール〈男子〉法政大学第二（神奈川）ベスト4
明星（東京）ベスト32
市川（千葉）ベスト32
 - ハンドボール〈女子〉佼成学園女子（東京）優勝
昭和学院（千葉）ベスト8
横浜創英（神奈川）ベスト16
浦和実業（埼玉）ベスト32
- 
- ソフトボール〈男子〉埼玉栄（埼玉）ベスト4
 - ソフトボール〈女子〉埼玉栄（埼玉）ベスト16
藤村女子（東京）ベスト32
 - 剣道〈男子団体〉高輪（東京）ベスト4
東海大相模（神奈川）ベスト4
 - 剣道〈女子団体〉桐蔭学園（神奈川）ベスト16
 - ボクシング〈学校対抗〉駿台学園（東京）優勝
 - ヨット〈男子FJ級ソロ〉逗子開成A（神奈川）9位
慶應C（神奈川）16位
 - ヨット〈男子FJ級デュエット〉逗子開成（神奈川）6位
慶應（神奈川）8位
 - フェンシング〈男子学校対抗〉法政大第二（神奈川）ベスト4
埼玉栄（埼玉）ベスト8
慶應（神奈川）ベスト16
 - フェンシング〈女子学校対抗〉慶應湘南藤沢（神奈川）ベスト32
埼玉栄（埼玉）ベスト32
 - 陸上〈男子学校対抗〉相洋（神奈川）優勝
法政大第二（神奈川）4位
成田（千葉）6位
 - 陸上〈女子学校対抗〉相洋（神奈川）5位
昌平（埼玉）8位
 - 卓球〈男子学校対抗〉日大豊山（東京）ベスト32
実践学園（東京）出場
 - 卓球〈女子学校対抗〉横浜隼人（神奈川）ベスト16
武蔵野（東京）ベスト32
和洋国府台（千葉）ベスト32
 - サッカー〈男子〉西武台（埼玉）ベスト8
成立学園（東京）出場
 - サッカー〈女子〉十文字（東京）ベスト8
 - ボート〈男子舵手つきクォドルブル〉慶應（神奈川）準々決勝4組3位
早稲田高等学院（東京）準々決勝5組4位
 - ホッケー〈男子〉慶應（神奈川）ベスト16
早稲田高等学院（東京）ベスト16

※上記は原則として男女別の学校単位の団体戦、学校対抗の戦績のみ。このほか、個人、ダブルス、ペア競技では私立中高一貫校の選手が多数出場～入賞。
※多くの種目で出場している埼玉栄、東海大相模など強豪校の戦績は一部割愛。

※水泳（競泳）は表作成時点で学校対抗最終得点が出ていなかったが、最終順位では男子が埼玉栄（埼玉）2位、春日部共栄（埼玉）3位、淑徳巣鴨（東京）5位、慶應（神奈川）7位、女子が埼玉栄（埼玉）2位、早稲田実業（東京）8位。